

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター

The Japan Center For Michigan Universities

No. 38
2005 秋

Director's Report

Jeffrey Johnson,

Director of Japan Center for Michigan Universities

JCMU's summer session flew past and went very well in spite of a great many visits to the clinic and hospital for everything from colds, to rashes, and even a case or two of hypochondria.

The biggest event of the summer was of course the July 26th visit by Governor Granholm, MSU President Simon, UM President Coleman, and Wayne State President Reed. Students gave speeches and sang the "Lake Biwa Song", koto music accompanied the VIPs on their tour around JCMU; and the guests appeared impressed with JCMU's hospitality. About 13 Expo guides came back to JCMU for the festivities and appeared to feel at home once again. It was great fun!

In September, the Maibara H.S. classes were back at JCMU again for their special sessions with the English program. From all reports their short program went very well once again. On the Japanese side, we are offering six courses in addition to the Japanese language course. Three of them are business-related - making a rather high concentration in one area for the first time - two are culture classes - on religion and minorities - and another first for JCMU is former director Douglass Scott's online intercultural communication course with video conferencing. JCMU continues growing and in some unexpected directions!

ミシガン州 グランホルム知事来訪!!

ディレクターズ・レポート

ジェフリー・ジョンソン

ミシガン州立大学連合日本センター所長



歓迎レセプションで挨拶に立つグランホルム知事

JCMUでの夏期日本語集中コースは飛ぶように過ぎ去りました。風邪や発疹、また心気症等により、病院を訪れる学生が多かったものの、プログラムは順調に推移しました。

今夏最大のイベントは言うまでもなく、7月26日に、ミシガン州のグランホルム知事をはじめ、ミシガン州立大学のサイモン学長、ミシガン大学のコールマン学長、ウェイン・ステイト大学のリード学長が、当センターを訪問されたことです。学生たちは、JCMUでの体験についてスピーチを行い、“琵琶湖周航の歌”を披露しました。このほか、琴の音色を耳

にしなごらの館内見学などにより、賓客の方々はJCMUでのもてなしにたいへん感激されたようでした。この時には、13人の愛知万博アメリカ館ガイドの学生たちもJCMUに戻ってきて、母校を懐かしむ機会となり、一同がたいへん楽しいひとときを過ごしました。

9月に入ってから、県立米原高等学校の皆さんが、JCMUで英語を学ぶ短期の特別クラスのために、当センターを訪れてくださり、非常に好評のうちにプログラムを終了しました。

日本語・日本文化プログラムの関係では、現在、日本語のクラスに加え、6種の選択科目を提供しております。そのうち3科目は、ビジネス関連であり、JCMUとしては初めて1つの分野に集中したクラス編成を行っています。他の2科目は、文化関連である宗教と少数民族を扱ったクラスです。そして、残る1科目は、これも初めての取り組みで、オンラインによるビデオ会議の技術を使った、ダグラス・スコット元JCMU所長（現早稲田大学助教授）による異文化間コミュニケーションの授業です。JCMUは、若干想定外の方向性も加味しながら、成長し続けています！



“琵琶湖周航の歌”を披露する学生たち。グランホルム知事(左から2人目)も急遽輪に加わってくださいました。

特

集

日本にしながら留学生活！！

JCMU英語プログラム受講

&ドミトリーライフ体験談



JCMUでは留学生向けの日本語・日本文化プログラムのほか、日本人の方向けに英語プログラムを実施しております。

このたび、1年間の英語プログラム受講とドミトリーライフ(寮生活)を終え、米国ミシガン州に旅立たれた山岡史明さんより、JCMUでの体験談をお送りいただきました。

体験談からは、英語の授業に加え、アメリカ人留学生たちと生活をともにすることで、非常に有意義な時間を過ごされたことがうかがえます。

今回はこの体験談を、皆様にご紹介いたします。

最近まで英語にそれほど興味がなかった私が本格的に英語を勉強するべくJCMUの門を叩いたのは、ちょうど大学4年になった頃です。「大学卒業後、アメリカへ留学し大学院で専門科目を継続して勉強したい。」大学3年の時にそう考えるようになり、どのように英語を勉強しようか大学の先生に相談したところ奨学して下さったのがJCMUでした。

午後からは大学での講義もあったため、JCMUで受講したクラスはモーニングコースだったのですが、総合的に英語能力を向上させたかた私には結果的に適したクラスでした。クラスメートのバックグラウンド、目的は様々で皆熱心に勉強していますが、その中に和気藹々とした雰囲気があり、そこは私にとってすごく良い環境でした。授業内容の中心となるのはリスニングとスピーキングで、リーディングも行われました。

授業では、クラスのグループ内だけではなくクラス全体の中でも、たびたび意見を求められます。開講されてまもなくの頃は、時々お互いに発言するのを遠慮したりすることもありましたが、そこはさすが日本での英語教育経験が豊富な先生方。ユニークたっぷりに“Don't be shy.”と発言を促して下さり、クラスを楽しくまとめ上げ授業を進めて下さいました。私の考えでは、英語を学ぶ際、単にネイティブスピーカーから学べば良いというのではないと思います。やはりその道のプロである、それ相応の英語指導資格や経験のある方から学ぶに越した事は無いのではないのでしょうか。その点において、JCMUではずっと実りある教育を受ける事が出来た事を実感しています。

現在も英語に対しそれほど自信があるとは言えないのですが、JCMUで受講を始めた頃は、現在とは比べものにならないほど自信も理解力も無く、授業で扱われる英語の内容自体が難解なものでもなく、「聞く」・「話す」という英語教育を受けてこなかった私には当初それを行うのがすごく困難なことでした。しかし、先生が質問に対して親切に、そして的を捕らえた回答をしてくださり、クラスでは常に自分の言葉で表現するよう促してくださり、そうしたチャレンジする機会を多く得られたことでリスニング、スピーキング共に大きな進歩が得られたことを確信しております。



JCMUの教室でのテレビ局による取材

外国語を習得する最善の方法は、その国に身を置く事だとよく言われます。その言語が話されている国に行き、常にネイティブの言語に触れ、それを手本に学べる環境で生活することです。しかし、わざわざ英語圏の国へ行かなくても英語を学ぶうえで、それと非常に似た環境を得られる場所が滋賀県にありました。それがJCMUの付属寮です。

付属寮での生活は、アメリカの学生と同じ屋根の下で生活をし、そこでは常に英語に接触できる環境にあります。他の英会話学校との最大の違いは、この点にあると私は思っています。英会話学校では、日本人

学生の数に対してネイティブ講師の人数の比率が低いこと、要するに日本人の数に対してネイティブスピーカーの数が少ないのは当然のことです。しかし、JCMUの寮ではその反対、つまりアメリカ人の割合のほうが大きく、それだけアメリカの学生と話す機会に恵まれており、彼らとの会話の中で授業で習ったことを実践することが出来ました。常に英語に触れる環境が私の英語でのコミュニケーション能力の向上を促し、さらにその上達を加速させてくれたことは間違いありません。

そして、共に生活する仲間は日本に興味がある学生達ばかり。そこでは互いの国の文化事情や背景についてなど様々な意見交換がなされます。日本ではこうだけどアメリカではこうとか。日本で生活をしていて、外からの視点で日本を考えることは、なかなか無いことです。海外に行った時にはあったとしても。そして、そうした彼らの意見や会話の中から外国から見た日本を垣間見ることができました。さらに、アメリカの大学生のライフスタイルも知ることができ、授業であまり扱わないようなアメリカのポップカルチャーなども知ることが出来ました。その他にも一緒に映画を観たり、買い物に出かけたり、週末にはパーティーを楽しんだりと本当に飽きない毎日でした。

このようなこともありました。サマーセメスターの学生が鍋を食べたいと私に話をもち掛けて来ました。その学生は、そのセメスターで帰国しなければならず冬まで日本にいません。そこで、私は鍋を作ることを決意。友人を集め、真夏に大汗を拭いながら私達は鍋をつきました。

なお、私の場合は寮生活を通じて多くのアメリカの学生と知り合いましたが、JCMUの英語プログラムを受講すれば、寮に入らなくてもカンパセーションパートナー制度を通じ、アメリカの学生と知り合うことができます。

JCMUで約一年間クラスを受講してきましたが、大学卒業を機にアメリカに留学することを決意しました。JCMUで知り合ったアメリカの学生の総数は150名以上に上り、もちろんその全員という訳ではありませんが多くの友人達とチャットやメールを通じて連絡を取り合っています。私はアメリカに行きますし、彼らがまた日本に戻ってくる事を私は知っています。生涯の友として付き合える友人が一人でも多くいてくれればと思っています。

JCMUを受講を始めたのは、ちょうど大学4年になった時でしたが、今思う事は、「英語に興味を持った後にすぐ、JCMUの存在を知る事が出来て良かった」ということです。ぜひ皆様にもJCMUの門を叩いてみてほしいと思います。素晴らしい経験が得られると思いますので。



JCMUの留学生たちと、旅行先の地下鉄駅構内にて。
(前列左から2人目が山岡さん。)

《冬季英語プログラムごあんない》

開講期間 2006年1月5日(木)~3月22日(水)

英語集中コース

月~金 10:00~12:00 13:10~15:10

留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。

スキル・テーマ別コース

週1~2回 10:00~12:00 13:10~15:10

あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「ライティング」、「アメリカ・オン・ビデオ」総合英語等の実力アップを図るためのコースがあります。

夜間コース

月・木 週2回 19:00~20:30

実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

申込締切 2005年12月13日(火)

詳しくは、ミシガン州立大学連合日本センター
TEL 0749-26-3400 までお問い合わせください。

ホームページも、ご利用ください。
<http://www.jcmu.net>

《キキリキ》

昔々のことです。昭和63年11月中旬から30日間、チェコスロバキアなどを訪問して、各国の教育事情、文化、芸術等を視察研修する機会を得ました。翌年から同行した人達と、毎年一度思い出話で一晩過ごします。その中で、徳島県の高校に勤める長尾照照先生の体験談は、いつも楽しい話になります。

.....首都プラハで文化施設を見学した後、北方125キロ離れた東ドイツとの国境に近いディエチンに5日間滞在する。11月半ばだと言うのに、気温はここ数日マイナス8度を上下している。5センチほど積もった雪は硬質ガラス状となり、歩くとバリッ、バリッと音がする。それに夜明けが遅く日暮れが早く、午後4時ともなれば、もう薄暗い。

3日目には、宿舎の従業員の三人の娘さんとも馴染みとなり、身振り手振りでお話をします。チェコスロバキアのニワトリは何で鳴くのか、聞いてみた。日本ではコケッココと鳴くと言うと、初め笑いこぼれていた娘さん、やがてニコリ笑って「キキリキ」と教えてくれた。なんとチェコスロバキア的ではないか。本物のニワトリの声は聞けずじまいであったが、今ごろ「キキリキ」と時を告げていることだろう。.....

研修旅行中も「キキリキ」は、流行語のように団員に広まりました。

そしてロンドン、ドバー、パリから最後の訪問国アメリカ合衆国では、アラバマ州ベッセマー市で小、中、高等学校を訪問。学校では、生徒の能力、人種、家庭環境等において著しい多様性をもつことから、授業の工夫、進学に備える高度の授業の展開、徹底した職業教育の実施など、多様な授業形態を用意しており、生徒の学ぶ態度は、積極的に生き生きとしたものでした。Vocational Centerの壁に「Happy Teachers make productive students」と書かれていたのが印象的でした。

長尾先生は続けます。.....この話はアメリカまで持ち込んでいって、思わぬ発見となる。ある日、コヒーショップで、メキシコ人と隣り合わせた時、チェコスロバキアのニワトリの話をする、「やあ、メキシコのニワトリだってキキリキと鳴くよ」と丸い大きな目をさらに大きくして言った。そこで「じゃあ、いろんな国のわからない言葉を使うのは人間だけか」と言うと、彼も全くそうだというふうに両手を広げて見せた。彼の陽気な話ぶりが今も心に残っている。.....

先生は、生物学を教えていましたが、ほどなく退職され、海を見下ろす小高い丘に小さな動物園を開きました。二年前、初めて寄せていただきました。長いあごひげもすっかり真っ白になり、やさしい園長さんとして動物にも、子どもたちにも慕われています。(真田 傳強)

大津夜間コースのごあんない

開講期間:2006年1月11日(水)~3月22日(水)

時間:毎週水曜日 19:00~20:30

場所:ピアザ淡海

(大津市におの浜一丁目(びわ湖ホール東隣))

申込締切:2005年12月13日(火)

2005年度 行事予定

10/21 金 ハロウィーンパーティー

11/11 金 第50回公開講座

12/2 金 第51回公開講座

12/10 土 日本語発表会

1/5 木 英語プログラム(冬季)開講

長期ホストファミリー募集

ミシガン州立大学連合日本センターでは、アメリカ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日している留学生のホストファミリーを随時募集しています。留学生たちは、日本語、日本文化に興味をもち、日本の家庭で生活しながら、日本人とのふれあいを求めています。ひとりでも多くの留学生がホームステイの体験ができるようご協力いただければ幸いです。当センターまでの通学所要時間が1時間程度の範囲のご家庭であること、などの条件がございます。

詳しくは下記までお問い合わせください。

Snapshots



短期英語講習でJCMUに来られた米原高校の皆さんには、アメリカからの大学生たちとの意見交換も体験していただきました。

ミシガン州立大学連合 日本センター

〒522-0002

滋賀県彦根市松原町網代口1435-86

TEL 0749-26-3400 FAX 0749-24-9356

<http://www.jcmu.net>

編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所